

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 日本エクスラン工業株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号	
本票作成	部署名：日本エクスラン工業 西大寺工場 工務部				
主たる業種	分類コード	11	業種名：繊維工業		
事業の概要	アクリル繊維生産量：38,000t/年 従業員数：300名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	西大寺工場		岡山市東区金岡東町三丁目3番1号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 27)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	110,619 t CO ₂	117,136 t CO ₂	105,088 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 27)年度排出量
	①	西大寺工場	117,136 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(27)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 0.5 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産数量(当工場の主たる製品を生産するために要するエネルギーの原油換算量を基準として、製品ごとに換算したものの数値)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(27)年度	目標年度
		3,468 t CO ₂ /(千t)	3,486 t CO ₂ /(千t)	3,294 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 27 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

平成27年度は前年に比べ生産量は若干増加し、総排出量も増加となった。生産量の増加にも関わらず、排出原単位が僅かに悪化している要因には、ボイラーの主燃料としているオイルコークス品質の低下がある。当社ではオイルコークス燃焼後の未燃灰はリサイクル燃料として再利用しているが、近年は未燃灰の量が増加傾向にあり、全量回収が困難となってきている。そのため昨年より未燃灰売却用の混練機設備を導入し、一部を売却へと切替えた影響もあり、排出量原単位が悪化した。しかしながら、削減の取組としては、照明のLED化(2015年度：約120灯)と自動点灯の拡大、アクリル製造工程の効率化等、計画に沿って実行中である。

【推進体制】

- ①省エネ対策委員会：工場長を委員長、各部長を委員とする工場全体会議（年2回開催）
- ②工場長の現場点検：副工場長、環境、工務部長も同行し安全の他、省エネについても点検する（毎週）
- ③コスト改善委員会：社長出席のコスト低減対策会議。その中で省エネ取組状況や実績の把握を行う（毎月）
- ④環境保全委員会：各部の環境改善目標に対する実績把握等を行う、工場長・部長出席の会議（毎月）

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
西大寺工場	<p>(平成27年度実施分)</p> <p>(1) アクリル製造工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A D-R ヒーターのドレン回収 (CO2削減量 133t/年×平成27年度寄与率36%=48t) <p>(2) アクリル製造工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溶剤精製設備増強 (CO2削減量 263t/年×平成27年度寄与率42%=109t) <p>(3) 照明のLED及び自動化 (CO2削減量 14t/年)</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>(1) 空気脱湿機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ型ドライヤーへ更新（3台目） (CO2削減量 78t/年) <p>(2) アクリル製造工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紡糸廃熱交換器の効率向上（伝熱面積の増大） (CO2削減量 429t/年) <p>(3) アクリル製造工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲル濾過設備の廃熱回収 (CO2削減量 434t/年) <p>(4) 計装用空気圧縮機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インバーター機台へ更新 (CO2削減量 144t/年)

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	2003年に産業廃棄物焼却設備を設置した。以後、付属の廃熱ボイラーで発生した蒸気を工場へ送気することで廃熱の有効利用を図っている。
その他	無	

【その他特記事項】

<p>(1)2010年に自家用車（公用車）1台をハイブリッドカーに更新</p> <p>(2)空調用電力・蒸気節減のため、クールビズ・ウォームビズ運動推進</p> <p>(3)社内環境展を（1回/年）実施、省エネと環境負荷低減を従業員にPR</p>		
---	--	--